

新たな 木材の 利用

国産材を使った ギター製作

国産材の付加価値向上を目的として一般社団法人創造再生研究所が製作を進めてきた、セン(北海道産)・天竜スギ(静岡県産)を使用したエレクトリックギターの試作が6月に完成。6月18日に東京ビックサイト(東京都江東区)で行われた「スマートコミュニティ Japan 2015」でのイベント、ライブ・ドリアド2015では、林 芳正農林水産大臣による試奏が行われました。



林 芳正農林水産大臣によるギター試奏

ギターの種類には、アコースティック、フラメンコ、クラシックとエレクトリック等があり、音楽のジャンルによって使用する弦や形状が異なります。

今回製作された

エレキギターは、

ボディのセンター部分に北海道産のセン、ボディ周辺部とネックおよびヘッドには静岡県産の天竜スギを使用しています。

セン・天竜スギともに8年以上天然乾燥した銘木を選び、なるべく木質形成を壊さないよう天然乾燥と人工乾燥のベストミックスの道を探って、含水率を7%まで下げる為に木質燃焼炉での低温乾燥を行いました。

ギター製作に使用する国産材の候補には、堅く耐久性のあるカエデやセン等の広葉樹や、針葉樹であれば木目が平行で目が詰まっている高知県の魚梁瀬スギやエゾ松等も挙がっていました。

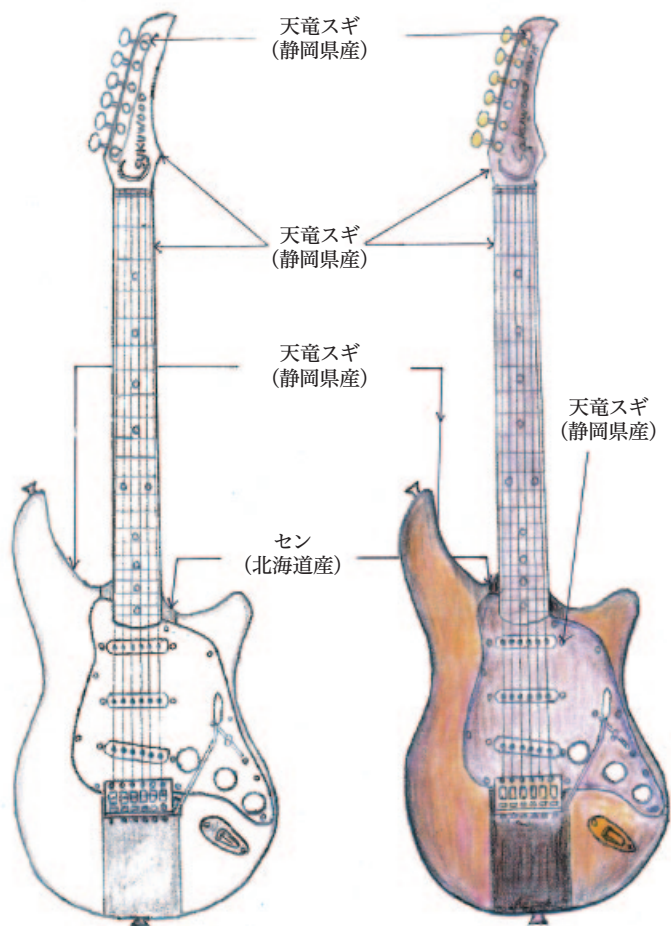
しかし、ギター製作を「楽器のまち」として知られる静岡県浜松市の松井正博氏(MATSU-GUITAR工房)、使用する木材の乾燥・プレカットを静岡県磐田市 of 株式会社セイリウがそれ



ぞれ担当することから、ギターの製品表示を静岡県とすることに決定しました。静岡県浜松市の公益財団法人平野美術館からセン、天竜スギドライシステム協同組合から天竜スギの提供を受けて製作が行われました。

今後の展開としては、一般社団法人創造再生研究所がプロデュースするオーガニックライフ提案ブランドSAKUWOODの名で活動し、ハンドメイド機種は松井正博氏による制作、スタンダード機種は楽器メーカーとのタイアップによる音楽文化活動が予定されています。また、アコースティックギターや他の木製楽器製造についても計画が進められています。

今回のギター製作に関する研究と製造過程で得られた知識は、今後の国産材による楽器づくりに活かされ、国産材の使用に新たな視点が産み出されることが期待されています。



国産材エレキギター (Sakuwood MR-15)のデザインと使用木材

国産材の楽器づくりは、持続可能な地球環境に貢献する取組



一般社団法人創造再生研究所
代表理事 小見山将昭氏

木製の楽器づくりは、樹種選定・伐採方法・木取り(品質選定製材)・乾燥技術・木工技術における各分野の匠の結集作業。楽器づくりの伝統そのものが、森林文化思想を育み、持続可能な地球環境に貢献する取組です。

また、演奏者による社会的伝播効果は計り知れません。生物多様性ホットスポット国である日本を世界へアピールし、文化芸術面から国産材の利用促進と輸出に貢献することが、今回のギター製作のポイントです。

現在、国産材を使用して楽器を造っている方々は各地に点在しています。今後は、地産木材と異種産業とのマッチングに貢献して行きたいと考えています。

国産材エレキギター製作風景



ネック削り出し(天竜スギ)



指板部フレット打ち



ピックガード(天竜スギ)

国産材の美しさを活かすため、天竜スギを極薄に削った(つき板)後にアクリル加工。



ギターヘッド(天竜スギ)

ペグ(糸巻)がマウントされる部分にはスギの堅い部位を使用。



ギターボディ (天竜スギ、セン)

金属パーツがマウントされるボディ中心部には堅いセン、周辺部には天竜スギを使用。